取扱説明書

Rider 213 C, Rider 216
Rider 216 AWD

必ず本取扱説明書をよくお読みになり、
内容を理解したうえで製品を使用してください。

Japanese

目次

目次
目次 2
シンボルマークの表記
シンボルマーク 3
はじめに
お客様各位 5
公道での運転と輸送 5
けん引 5
使用 5
万全なサービス 5
点検記録
出荷前点検 6
使用開始から 8 時間後 6
各部名称
各制御装置の位置 7
安全上の注意事項
安全上の注意事項 8
傾斜地での使用 9
子供の安全 10
メンテナンス 10
輸送 11
各部の説明
各部の説明 12
カッティングユニット 12
カッティングユニット用昇降レバー 12
刈高調整レバー 13
座席 13
給油 13
リリースレバー 13
リリースレバー 13
運転
始動前 14
エンジンの始動 14
弱いバッテリーでのエンジン始動 15
Rider の運転 15
刈り取りのコツ 16
エンジンの停止 16
メンテナンス
保守点検一覧 17
清掃 18
フードの取り外し 18
ステアリングワイヤーの点検と調整 18
駐車ブレーキ調整 : Rider 213 C、Rider 216 19
駐車ブレーキ調整 : Rider 216 AWD 19
スロットルワイヤーの調整 19
エアフィルターの交換 20
燃料フィルターの交換 20
燃料ポンプエアフィルターの点検 20
タイヤ空気圧の点検 21
イグニッション･システム 21
ヒューズ 21
安全システムの点検 21
エンジン冷却吸気口の点検 22
カッティングユニット接地圧の点検と調整 22
カッティングユニット水平度の調整 22
カッティングユニットのサービスポジション 22
BioClip プラグの取り外し 23
BioClip プラグの取り外し 24
ブレードの点検 24
注油
エンジンオイルレベルの確認 25
エンジンオイルの交換 25
トランスミッションのオイルレベル点検 25
ベルトアジャスターへの注油 26
一般的な注油 26
トラブルシューティング
保管
冬季の保管 28
保護 28
サービス 28
テクニカルデータ
EC 適合宣言 (ヨーロッパのみに適用) 31

シンボルマークの表記

シンボルマーク

下記のシンボルマークが製品およびマニュアルに記載されています。

警告 ! 不注意や誤用はオペレーターなどの人身事故の原因となる可能性あり

必ず本取扱説明書をよく読み、内容を理解したうえで製品を使用のこと

必ず着用 :

- 承認された耳の保護具

EC 指令適合品

中立 (ニュートラル)

高速

低速

エンジンを停止すること

バッテリー

チョーク

燃料

オイルレベル

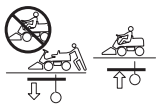
刈高

後進

前進

イグニッション

油圧式フリーホイール
(油圧駆動ロック解除)



警告 : 回転部品に手や足を近づけないこと

駐車ブレーキ

ブレーキ

EC 指令に基づく環境への騒音排出。製品の騒音排出については「テクニカルデータ」とラベルに記載

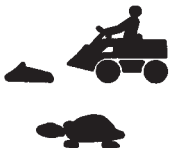
ロータリーブレード : エンジンの運転中はフードに手や足を近づけないこと

傾斜地の横断禁止

近くに人、特に子供や動物がいる場所での使用禁止

製品や関連機器による人の輸送禁止

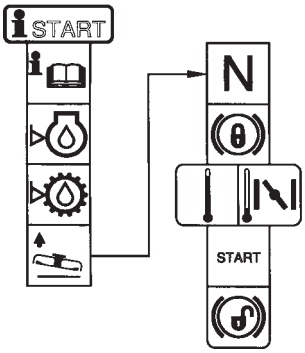
カッティングユニットを装着していないときは低速運転すること



カッティングユニットはエンジン回転最大で使用すること

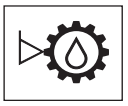
シンボルマークの表記

始動時の注意事項



エンジンオイルレベルを確認すること

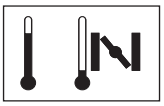
トランスミッションオイルレベルを確認すること



カッティングユニットを持ち上げる

駐車ブレーキを掛けてロックする

エンジンが冷えている場合はチョークを使用すること



駐車ブレーキを解除してから運転を始めること

エンジンを停止しイグニッションケーブルを抜いてから修理または点検を始めること

はじめに

お客様各位

この度は、ハスクバーナ社の Rider をご購入いただきまして誠にありがとうございます。ハスクバーナ社の Rider は、フロント･カッティングユニット、および特許取得済みの関節式ステアリング･システムを搭載した特徴のある製品です。Rider は狭い場所でも効率的に作業できるように設計されています。また、操作性を考慮して制御装置を配置し、ペダル操作の油圧式トランスミッションを使用することにより、高性能を実現しています。

本取扱説明書をよくお読みください。本取扱説明書に記載されている操作、点検、メンテナンス等の指示に従って Rider をご使用いただくことで、より長くご使用いただくことができ、また売却することになった場合の中古価値を高めることができます。

Rider を売却する場合は、必ず本取扱説明書を添えてください。

本取扱説明書の最終章には、点検記録が記載されています。すべての点検項目と修理項目が記録されていることをご確認ください。点検や修理の記録をしっかりと取ることによって、Rider の定期点検にかかる費用を抑えることができ、また中古価値を高めることができます。Rider を修理工場へ検査に出す場合は、本取扱説明書も一緒に提出してください。

公道での運転と輸送

公道で Rider を運転する場合、各道路の交通規則に従ってください。Rider を他の車両で輸送する場合、必ず承認された固定装置でしっかりと固定してください。

けん引

油圧式トランスミッションが搭載された Rider をけん引するときは、低速で走行し、短距離に留める必要があります。トランスミッションが破損する可能性があります。

けん引をするときは、油圧式トランスミッションを解除する必要があります。「クラッチ制御」を参照してください。

使用

本製品は、戸外の平らな地面で使用するように設計されています。また、メーカー推奨のアクセサリーを多数ご用意しており、用途の幅を広げることができます。ご利用可能なアクセサリーについては、お近くの販売店にお問い合わせください。製品はメーカー推奨の機器のみを使用することができます。製品を他の目的には使用しないでください。製品が他の方法で使用された場合、利用目的に反しているものとみなします。ハスクバーナ社が定める操作、点検、修理に関する注意事項を必ず守ってください。

重要情報 サービススケジュールに従い前後のホイール同期が点検･調整されている場合のみ、トランスミッションの保証は有効となります。同期が行われていないとシステムに支障をきたす場合があります。

本製品の運転、点検、修理は、その内容を熟知し、関連する安全事項に精通している人が行う必要があります。

事故防止のための規則、安全や職業病に関する一般的な規則、交通規則などを必ず遵守してください。

許可を得ることなく製品を改造した場合、ハスクバーナ社はそれによる製品の破損や人身事故の責任を一切負いかねます。

万全なサービス

ハスクバーナ社の製品は、世界各国において正規販売店でのみ販売されています。そのため、お客様は万全な点検および修理サービスを確実にお受けいただけるようになっています。製品の出荷前には、販売店にて各種検査と調整が実施されています。本マニュアルに記載されている点検実施記録をご参照ください。

スペアパーツが必要なときや修理や保証などに関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

本取扱説明書は、下記製造番号の製品の付属品です。	エンジン	トランスミッション

製品の銘板には以下の情報が記載されています。

- 型式表示
- 製造者型番
- 製造番号

スペアパーツを注文する際には、製品の型式表示と製造番号を記載してください。

点検記録

出荷前点検

1 バッテリーを最大 3 A で 4 時間充電する。 ☐

2 ステアリングホイール、座席、その他の機器を正しい位置に装着する。 ☐

3 タイヤ空気圧の確認および調整を実施する (60 kPa, 0.6 bar, 9 PSI)。 ☐

4 カッティングユニットの以下の調整を行う。

リフトスプリングを調整する (カッティングユニットの有効質量は 12-15kg / 26.5-33 ポンド)。 ☐

カッティングユニットの後端が前端よりも約 2-4 mm / 1/8” 高くなるように調整する。 ☐

最も低い刈高のときにコネクティングロッドが張られるよう、カッティングユニットの刈高を調整する。 ☐

5 エンジンオイルレベルが適正になっているか確認する。 ☐

6 トランスミッションオイルレベルが適正になっているか確認する。 ☐

7 バッテリーを接続する。 ☐

8 燃料を入れ、エンジンを始動する。 ☐

9 中立状態では製品が動かないことを確認する。 ☐

10 以下の項目を確認する。

前進 ☐

後進 ☐

ブレードの操作 ☐

座席安全スイッチ ☐

昇降レバー安全スイッチ ☐

油圧式ペダルの安全スイッチ ☐

11 エンジン回転の確認。「テクニカルデータ」参照 ☐

12 フロントホイールとリヤホイールの回転が同期しているか点検する (AWD モデルのみ)。サービスマニュアルを参照。 ☐

13 下記事項をお客様に伝える。

定期メンテナンス実施の必要性とメリット。 ☐

メンテナンスと本点検実施による製品中古価格への影響。 ☐

BioClip の適用範囲。 ☐

販売証等の書類一式。 ☐

出荷前点検を実施し、特に問題のないことを保証いたします。

_____

日付、マイレージ、認印、サイン

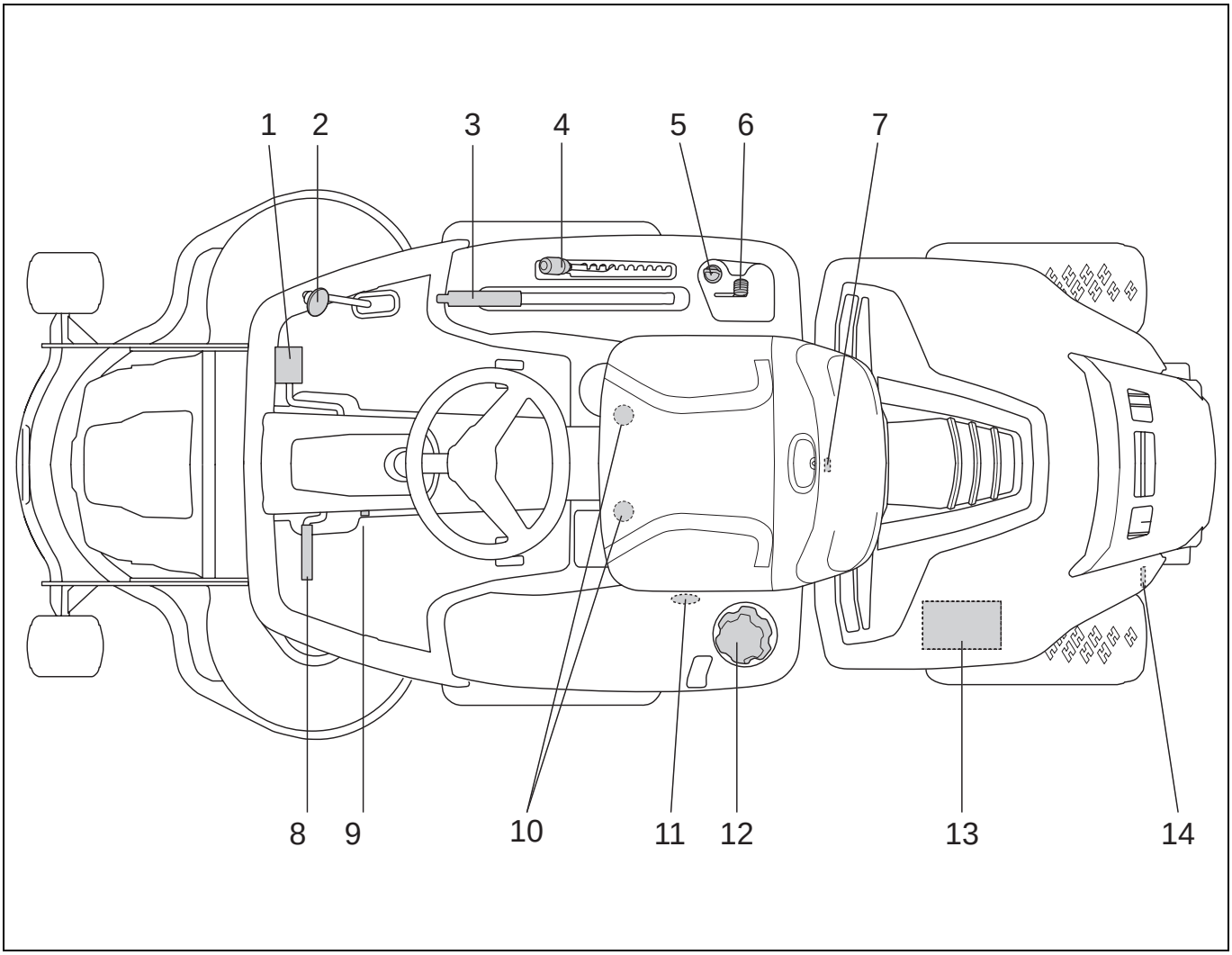
使用開始から 8 時間後

1 エンジンオイルを交換する。 ☐

2 ギアボックスのオイルを交換する (AWD モデルのみ) ☐

3 フロントホイールとリヤホイールの回転が同期しているか点検する (AWD モデルのみ) ☐

各部名称



各制御装置の位置

1 前進ペダル
2 後進ペダル
3 カッティングユニット昇降レバー
4 刈高調整レバー
5 イグニッションロック
6 スロットル / チョークコントロール
7 カバーロック
8 駐車ブレーキ
9 駐車ブレーキ用ロックボタン
10 シートアジャスター
11 フロントアクスル駆動解除レバー : 216 AWD
12 燃料キャップ
13 バッテリー
14 駆動解除レバー : 213 C および 216
リヤアクスル駆動解除レバー : 216 AWD

安全上の注意事項

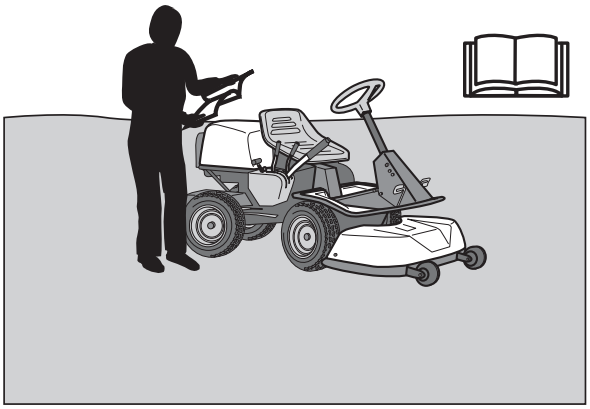
下記は安全のための注意事項です。よくお読みください。

Rider の保険契約について

- Rider の保険内容を確認してください。
- 保険会社に問い合わせてください。
- 第三者行為災害、火災、損傷、窃盗、および損害賠償を含む総合保険に加入してください。

一般使用上の注意

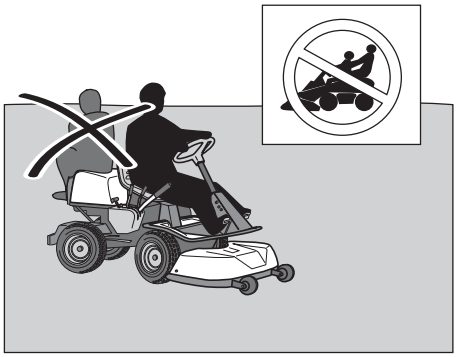
- 本取扱説明書に記載された注意事項をよくお読みになり、理解したうえで製品を使用してください。また、必ず注意事項を遵守するようにしてください。



警告！製品の使用中は、イグニッション･システムにより電磁場が発生します。電磁場ではペースメーカーにより影響を及ぼす恐れがあります。重大な人身事故または死亡事故を防ぐために、ペースメーカーを装着している場合は医師およびペースメーカー製造業者に相談したうえで製品をご使用ください。

- 製品の使用方法、安全制御、および素早く停止する方法について精通しておいてください。また、安全表示のラベルを理解し見分けられるようにしてください。
- 製品は、使用方法に熟知した大人のみが使用するようにしてください。
- エンジンの始動および運転の開始または停止の際には、製品の近くに人がいないことを確認したうえで行ってください。
- 製品を使用する場所から石、玩具、ワイヤーなどを取り除いてください。ブレードに触れ飛散する可能性があります。

- エンジンを停止し、排気口の清掃をしてからエンジンを始動してください。
- 排出装置に注意し、人に向けないようにしてください。
- エンジンを停止し、カッティングユニットの清掃をしてからエンジンを始動してください。
- オペレーターは、常に事故やけがの可能性があることを意識して操作してください。
- 製品で人を移送しないでください。本製品は一人乗り用です。



- 後進動作のときは、後方および下方に注意して操作してください。大小あらゆる障害物に注意してください。
- 角を曲がるときは速度を落としてください。
- 芝刈りをしないときはブレードを停止してください。
- 固定物の周りを運転するときは、ブレードが当たらないように注意して運転してください。製品が異物に乗り上げないようにしてください。

警告！本機は異物を弾き飛ばしたり、手足を切断する危険性があります。安全上の注意事項に従わない場合、重大な人身事故に至る可能性があります。

警告！マフラーには発ガン成分となり得る化学物質が使われています。万が一マフラーが損傷した場合は、これらの物質に触れないようにしてください。

警告！エンジンから排気されるガスには、無色で有害な一酸化炭素も含まれています。囲まれた場所で製品を使用しないでください。

- 製品は日差しの当たる場所など明るい場所で使用してください。また、穴や凸凹のある地形では使用しないようにしてください。その他の考えられる危険性についてもご注意ください。
- 倦怠感を感じたりアルコールを摂取した場合、または視界、判断力、調整能力に影響を及ぼす可能性のある薬剤を摂取した場合は、製品の運転をしないでください。
- 道路の近くで作業したり道路を横切る場合は、道路の交通状況に注意してください。
- エンジンをかけたまま製品から離れないでください。製品から離れるときは、ブレードを止めて駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、キーを抜いてから離れてください。

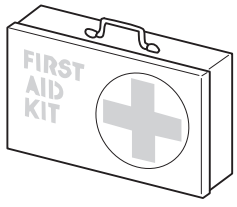
- 子供や、製品の使用方法を熟知していない人は、製品の使用や点検を行わないでください。地域の法律により使用年齢に制限がある場合があります。

警告！製品の使用時には必ず承認された保護具を着用してください。保護具はけがを完全に防ぐことはできませんが、けがの度合いを抑えることができます。保護具をお選びの際には、お近くの販売店にお問い合わせください。

- 聴覚障害を予防するために耳の保護具を使用してください。

- だぶだぶの服装での作業は避けてください。可動部に巻き込まれる可能性があります。
- 裸足での作業は避けてください。必ず保護用の靴、またはブーツを着用してください。なるべくスチールトゥキャップを装着したものをお勧めします。

- 製品を使用するときは、必ず救急箱をすぐ使える場所に準備しておいてください。



傾斜地での使用

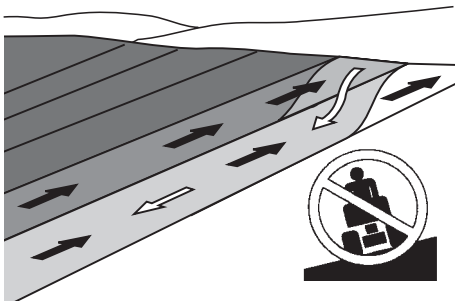
傾斜地での運転は製品のコントロールを失ったり、転覆する可能性が高く、重大な人身事故に至る可能性があります。傾斜地での運転には細心の注意が必要です。もし逆戻りできなかったり不安がある場合には、傾斜地での芝刈りはおやめください。

重要情報

カッティングユニットを持ち上げたままの状態で、絶対に傾斜地を運転しないでください。

使用上の注意事項

- 石や枝などの障害物を取り除いてください。
- 刈り取りは上方または下方に向かって行い、横方向へは行わないでください。



- 10° を超える斜面で製品を使用しないでください。
- 製品の安定性に影響を与えるアタッチメント装着時は特に注意してください。
- 傾斜地で製品を始動したり停止したりしないでください。タイヤが滑り始めたら、ブレードを停止して傾斜をゆっくりと降りてください。
- 傾斜地では必ずゆっくり滑らかに運転してください。
- 速度や方向を急に変えないでください。
- 不必要に傾斜を引き返すのは避けてください。必要な場合は、できるだけゆっくりと徐々に下降してください。ハンドルを急に切らないでください。
- 溝、穴、段差などに気をつけ、それらを避けて運転してください。凸凹のある地形では転覆しやすくなります。丈の高い草で障害物が隠れている可能性がありますのでご注意ください。

- 縁、溝、土手などの間近での芝刈りはおやめください。タイヤの一つが傾斜の縁や溝に乗り上げたり縁が崩れた場合、製品が急に転覆する可能性があります。
- 濡れた芝の刈り取りはおやめください。濡れた芝は滑りやすいため、タイヤがグリップを失い製品がスリップする可能性があります。
- 地面に足をつけることによって製品の安定を取ろうとしないでください。
- シャーシを清掃するときは、絶対に縁や溝の近くで行わないでください。
- 加熱するのを防ぐため、茂みなどの近くでは刈り取りをしないでください。

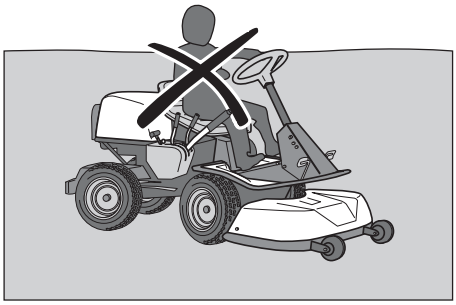
- 製品の安定性を向上させるためのホイールウェイトやカウンターバランスの質量についてはメーカーの推奨値に従ってください。

重要情報

傾斜を運転する際には、操舵性と操縦性を高めるためにホイールウェイトをリヤホイールに装着することをお勧めします。ホイールウェイトの使用についての不明点は、販売店にお問い合わせください。AWD モデルではホイールウェイトは使用できません。カウンターウェイトを使用してください。

子供の安全

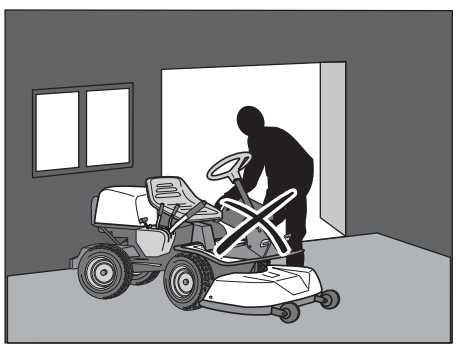
- 製品の近辺に子供がいる場合、しっかり監督してください。重大な事故が起こる可能性があります。子供は製品や芝刈りに興味を持つことがよくあります。また子供はすぐに移動してしまいますので、目を離さないようにしてください。
- 子供は芝刈りを行う場所から離すようにし、別の大人が近くで監督してください。
- 子供の動きに注意し、子供が作業領域に入ってきた場合は製品の運転を停止してください。
- 後進動作前と動作中は背後と下部を目視して、子供がいないことを確認してください。
- 子供を製品に一緒に乗せないでください。製品から落ちて重傷を負ったり、安全に操縦するうえで邪魔になる可能性があります。
- 子供には製品を運転させないでください。



- 角、茂み、木の近くなど、視界が遮られる場所では特に注意してください。

メンテナンス

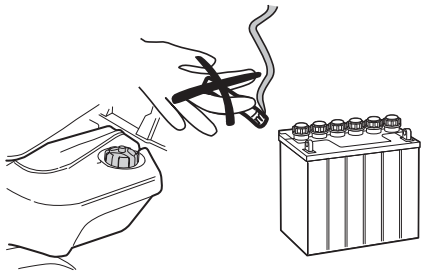
- メンテナンスの前にエンジンを停止します。エンジンの始動を防ぐために、調整やメンテナンスを行う前にイグニッションケーブルをスパークプラグから取り外すか、またはイグニッションキーを取り外します。
- 室内で燃料タンクに給油しないでください。



- ガソリンやガソリン蒸気は有毒で非常に可燃性が高いです。特にガソリンを取り扱うときは注意してください。不注意によって、負傷したり火災の原因となる可能性があります。
- ガソリンは、目的に沿った容器に保管してください。
- エンジンの稼働中は、燃料キャップを取り外したり、燃料タンクに給油したりしないでください。
- エンジンが冷却してから給油してください。喫煙はしないでください。火花や裸火の近くでガソリンの補給を行わないでください。
- オイル、エンジンオイルフィルター、燃料、バッテリーは、環境に配慮して取り扱ってください。地域のリサイクルに関する制度に従ってください。
- 感電によって負傷する可能性があります。エンジンの稼働中はケーブルに触れないでください。素手でイグニッション･システムの検査を行わないでください。

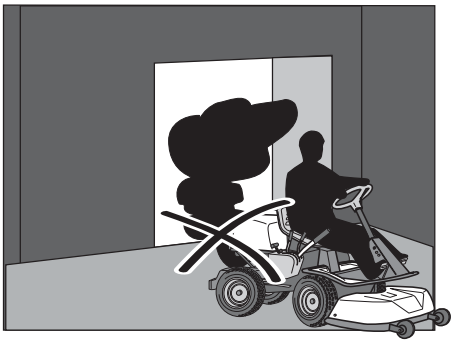
警告！運転中は、エンジンや排気系統は非常に高温になります。触れるとやけどを負う可能性があります。過熱を防ぐため、茂みなどの近くでは刈り取りをしないでください。

- 燃料システムで漏れが発生した場合は、問題が解決するまでエンジンを始動しないでください。
- 製品と燃料は、燃料漏れやガス漏れによって損害が生じる可能性のない場所で保管するようにしてください。
- 使用する度にオイルレベルを確認し、燃料タンクに空きがあるようにしてください。エンジン熱や日光の熱によって燃料が膨張しあふれ出る可能性があります。
- 燃料を入れ過ぎないようにしてください。製品にガソリンをこぼした場合は、拭き取って蒸散してからエンジンを始動してください。衣服にこぼした場合は、着替えてください。
- エンジン構成部品において何らかの操作を行う場合は、必ずエンジンを冷却してから行ってください。
- バッテリーのメンテナンスの際にはご注意ください。バッテリーは爆発性ガスを発生させます。喫煙中や火気のある場所では、バッテリーのメンテナンスを行わないでください。バッテリーが爆発し、重傷を負う可能性があります。

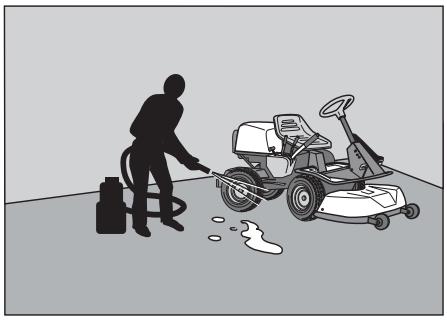


- すべてのナットとボルトがしっかりと締め込まれ、機器の状態が良好であることを確認してください。
- 安全器具を改造しないでください。正常に動作することを定期的に確認してください。保護用のプレート、カバー、安全スイッチなどの安全器具が装着されていなかったり、正常に動作しない場合、製品の運転はおやめください。

- エンジンカバーや保護用のカウリングを取り外したままエンジンを始動した場合、可動部や熱を帯びた部品等によって人身事故に至る可能性があるのでご注意ください。
- ガバナーの設定を変更しないでください。また超高速での運転はおやめください。超高速で運転すると、製品の部品が損傷する可能性があります。エンジン許容回転数は「テクニカルデータ」の章をご参照ください。
- 換気の悪い場所で製品を使用しないでください。排出されるガスには、無臭かつ有毒であり非常に危険性の高い一酸化炭素が含まれます。



- 何かを轢いたり衝突した場合は、停止して機器を点検してください。必要に応じて、修理を行ってから始動してください。
- エンジンをかけたまま調整を行わないでください。
- 製品の動作検証はメーカー支給、またはメーカー推薦の機器を使用して実施しており、それ以外の場合は動作保証するものではありません。
- ブレードは鋭利であるため切り傷を負う可能性があります。ブレードを取り扱うときは、ブレードを包むか保護用の手袋を着用してください。
- 駐車ブレーキが正常に動作することを定期的に確認してください。必要に応じて調整とメンテナンスを行ってください。
- 製品に付着した草、葉、がれき類を取り除いて火災の危険性を低減させてください。製品は冷却してから格納してください。



輸送

重要情報

輸送中は、製品を固定するために駐車ブレーキだけでは不十分です。必ず輸送用の車両に製品をしっかりと固定してください。

- 製品は重いため、重大な事故の原因となる可能性があります。車両やトレーラーに積み込むときと降ろすときは、十分にご注意ください。
- 製品の輸送には承認されたトレーラーを使用してください。
- トレーラーで製品を確実に固定するため、2 本の承認されたテンションベルトと 4 つのウェッジ形のホイールブロック (輪止め) を使用してください。

  駐車ブレーキをかけ、フレームやリヤワゴンのような製品の安定している部品にテンションベルトをかけます。トレーラーの後方および前方に向かって、各々ベルトにテンションを掛けて製品を固定します。

  リヤホイールの前と後にホイールブロックを置きます。
- 道路で製品を輸送または運転するときは、事前に地域の交通規則を確認し、遵守してください。

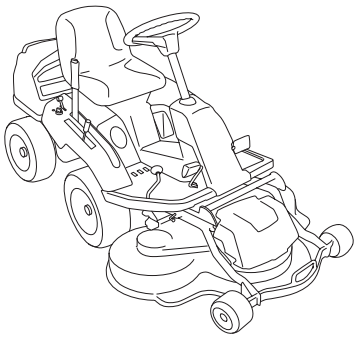
各部の説明

掲載モデルについて

本機は高品質製品で、長くお使いいただくことができます。本取扱説明書は Rider 213 C、Rider 216、Rider 216 AWD について説明しています。

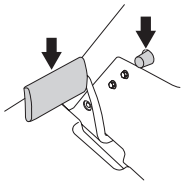
Rider 216 AWD は全輪駆動を装備しています。

エンジンからの動力は、ペダルによる可変速度が可能な油圧トランスミッションにより操作されます。



駐車ブレーキ

駐車ブレーキをかける手順は以下の通りです。



1 駐車ブレーキペダルを踏み込みます。

2 ステアリングコラムのロックボタンを押します。

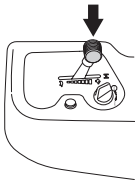
3 ボタンを長押ししながら、ブレーキペダルを放します。

ブレーキペダルを踏むと、駐車ブレーキロックが自動的に解除されます。

スロットルとチョークの制御

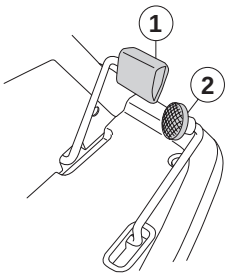
スロットル制御はエンジン速度を制御し、連動するブレードの回転速度も制御します。

また、チョークの作動も制御します。チョークが作動すると、豊富な燃料と空気がエンジンに取り込まれ、冷却状態での始動が容易になります。



速度制限

製品の速度は 2 つのペダルで無段制御されます。ペダル (1) は前進、ペダル (2) は後進に使用します。



警告！茂みの下の芝刈りをするときは、枝などによってペダルが遮られないようにしてください。製品の操作を誤る可能性があります。

カッティングユニット

Rider 213 C には 3 枚刃の Combi デッキが搭載されています。

- Combi 94

Rider 216 と 216 AWD は異なる二種類のカッティングユニットのいずれかが搭載されています。

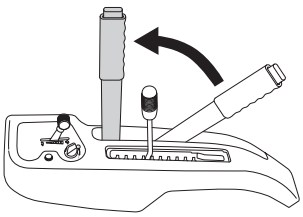
- Combi 94
- Combi 103

BioClip プラグを装備した Combi ユニットは、刈り取った芝などを細かく刻んで肥料にします。BioClip プラグを装着しない場合は、後方排出と同様に作動します。

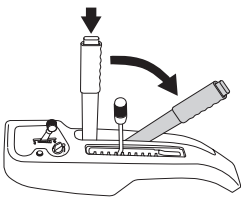
カッティングユニット用昇降レバー

昇降レバーは、移動時や芝刈り時のカッティングユニットの位置を設定するために使用します。

レバーを後ろに引くと、カッティングユニットが持ち上がり、ブレードの回転が自動的に停止します (移動位置)。



ボタンを押してレバーを前へ動かした場合、カッティングユニットが下降して、自動的に回転し始めます (芝刈り位置)。



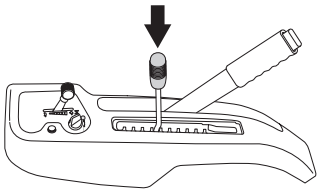
また、盛り土のある芝地などでは、レバーを使って刈高を一時的に調整することもできます。

各部の説明

刈高調整レバー

刈高は刈高調整レバーを使って 10 通りに調整することができます。

Combi ユニット 25-75 mm

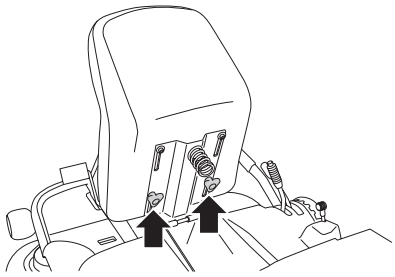


座席

座席の前端にはヒンジがあり、前方へ傾けることができます。

座席は前後の位置も調整できます。

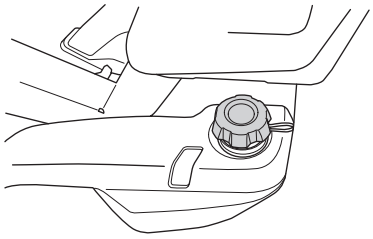
座席の下の取っ手を緩め、前方または後方へ動かして調整します。



給油

エンジンは最低オクタン価 85 の無鉛燃料 (オイル非混合) で作動しています。生分解性のアルキレートガソリンの使用をお勧めします。メタノール含有のガソリンは使用しないでください。

タンクは満杯にせず、膨張したときのために 2.5 cm (1”) 以上の余裕を残してください。



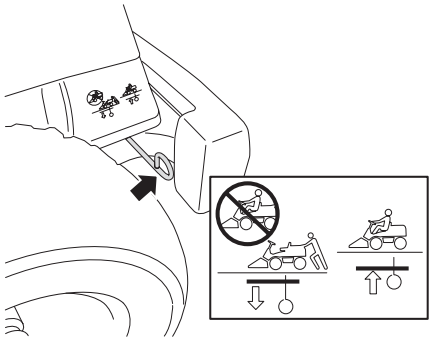
警告！ガソリンは非常に可燃性が高いです。取り扱いには注意し、室外で給油してください (「安全上の注意事項」を参照してください)。

重要！

燃料タンクをサポートエリアとして使用しないでください。

リリースレバー Rider 213 C、Rider 216

エンジンが停止しているときに製品を移動できるように、リリースコントロールを引く必要があります。コントロールは最後まで引きます。途中位置で止めないでください。



- コントロールを引き出すと駆動システムを解除します。
- コントロールを押し込むと駆動システムに接続します。

リリースレバー Rider 216 AWD

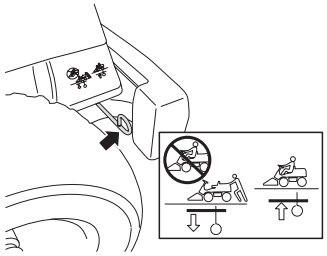
Rider 216 AWD にはフロントアクスル用コントロールが一つ、リヤアクスル用コントロールが一つ搭載されています。

クラッチコントロールを引き出した状態で製品は動きません。コントロールがひとつでも引き出されている場合は、アクスルの駆動が解除されています。

重要！

クラッチコントロールを必ず押し込んだ状態で製品を運転させるようにしてください。

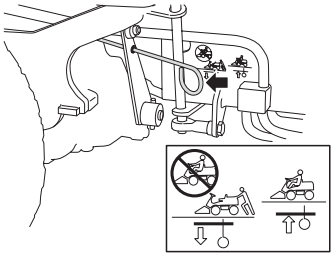
クラッチコントロール、リヤアクスル



- コントロール引き出し : 駆動システム解除
- コントロール押し込み : 駆動システム接続

クラッチコントロール、フロントアクスル

コントロールは左前輪内側にあります。



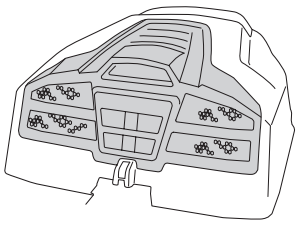
- リヤコントロール (引き出し): 駆動システム解除
- フロントコントロール (押し込み): 駆動システム接続

始動前

重要 !

運転席後部のエンジンカバー内部にあるエアー取り込み口グリルは、布、葉、草、泥などで塞がれないようにしてください。

エンジンの冷却不良。エンジン故障の危険性があります。

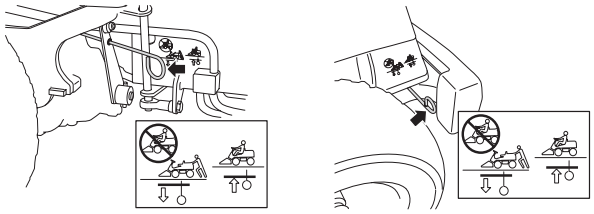


- 始動前に、安全事項や、コントロールの位置および機能に関する情報をお読みください。
- 始動前に、保守点検一覧に記載されている毎日のメンテナンスを行ってください。

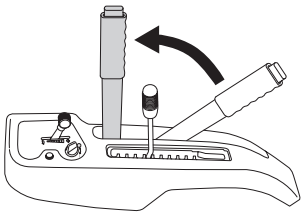
  座席を所定の位置に調整します。

エンジンの始動

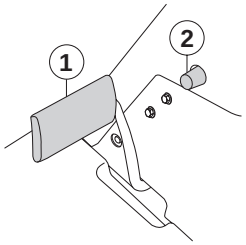
1 クラッチコントロールが「RUN」位置に押し込まれていることを確認します。Rider 216 AWD には、フロントアクスル用コントロールが一つ、リヤアクスル用コントロールが一つ搭載されています。



2 レバーを後ろに引いてロック位置にし、カッティングユニットを持ち上げます。



3 駐車ブレーキを以下の手順でかけます。



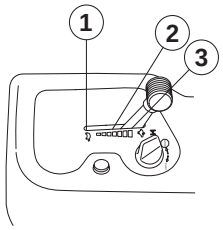
- 駐車ブレーキペダル (1) を踏み込みます。
- ステアリングコラムのロックボタン (2) を押し込みます。
- ボタンを長押ししながら、ブレーキペダルを放します。

ブレーキペダルを踏むと、駐車ブレーキロックが自動的に解除されます。

駐車ブレーキが踏まれていないとエンジンが始動しません。

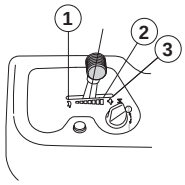
エンジンが冷めているとき :

4 スロットルを 3 の位置 (チョーク位置) に動かします。この位置にすると、エンジンに燃料が豊富に供給され、始動しやすくなります。

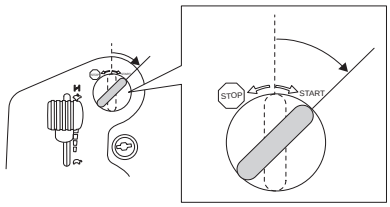


エンジンが温まっているとき :

5 スロットルを 1 と 2 の中間位置に動かします。



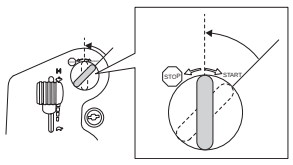
6 イグニッションキーを「START」位置まで回します。



重要情報

エンジンが始動しない場合は、約 15 秒待ってから再度手順を行ってください。それでも始動しない場合は、約 1 分待ってから再度手順を行ってください。

7 エンジンが始動したら、イグニッションキーをすぐに放して、中立位置に戻します。



8 チョークレバーを徐々に前方に倒します。エンジンに荷重をかける前に、中速またはハーフスロットルで 3-5 分稼働させます。

9 スロットルコントロールで必要なエンジンスピードに調整します。

警告 ! エンジンを屋内、囲まれた場所、または風通しの悪い場所で作動させないでください。排気ガスには一酸化炭素が含まれています。

弱いバッテリーでのエンジン始動

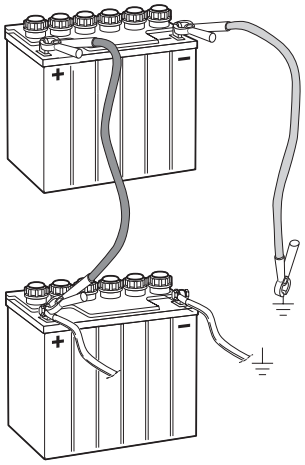
警告！鉛酸バッテリーは爆発性ガスを発生させます。バッテリーの近くに火花、炎、たばこなどを近づけないでください。バッテリーの近くでは必ず保護用のメガネを着用してください。

バッテリーが弱くエンジンを始動できない場合は、充電する必要があります。

緊急始動時にブースターケーブルを使用する際は、以下の手順に従ってください。

重要情報 お使いの Rider はマイナスアース付きの 12 ボルトシステムを搭載しています。そのため、相手車両もマイナスアース付きの 12 ボルトシステムを搭載している必要があります。他の車両を始動させるためにお使いの Rider のバッテリーを使用しないでください。

ブースターケーブルの接続



- 各バッテリーのプラス極 (+) へ赤ケーブルを接続します。シャーシにケーブル端を短絡させないように注意してください。

  満充電されているバッテリーのマイナス極 (-) に黒ケーブルを接続します。

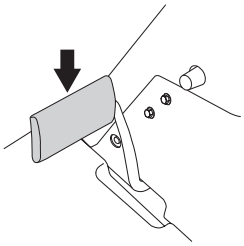
- 黒ケーブルのもう一方の端を、シャーシの燃料タンクやバッテリーから離れた位置にアース接続します。

逆手順でのケーブル取り外し

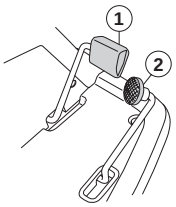
- 黒ケーブルをシャーシから取り外し、次に満充電のバッテリーから取り外します。
- 最後に、赤ケーブルを両方のバッテリーから取り外します。

Rider の運転

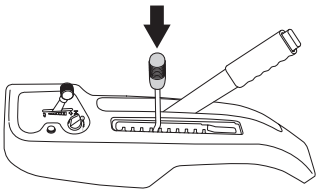
1 駐車ブレーキペダルを踏み込んですぐ放し、駐車ブレーキを解除します。



2 必要なスピードになるまで、ペダルをゆっくりと踏み込みます。ペダル (1) は前進、ペダル (2) は後進に使用します。

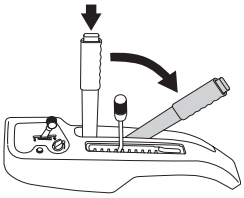


3 刈高レバーで、必要な刈高 (1-10) を選択します。



均一な刈高を得るためには、両側の前輪の空気圧が 60 kPa / 0.6 bar / 8.5 PSI となっていることが重要です。

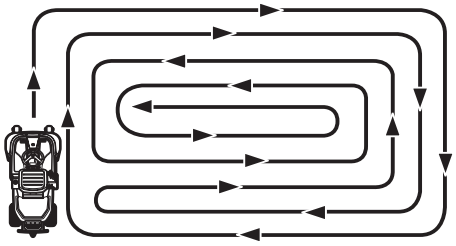
4 昇降レバーのロックボタンを押し込み、カッティングユニットを下降させます。



重要情報

ドライブベルトの寿命は、ブレードに接続するときのエンジン回転を低速にすることによって長くなります。カッティングユニットが刈り取り位置まで下降したとき、初めてフルスロットルで運転してください。

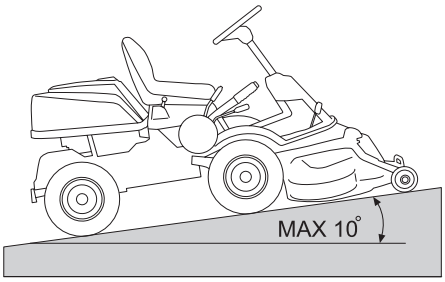
刈り取りのコツ



警告！ブレードによって石やその他の物体が飛散するため、あらかじめ芝生から取り除いておいてください。

- 岩やその他固定物の位置を把握し、衝突を防止してください。
- まずは高い刈高から始め、必要な芝刈り結果が得られるまで徐々に下げていきます。
- 許容最高エンジンスピード (ブレードが高速で回転) と低速 (Rider が低速で走行) の組み合わせにより最高の芝刈り結果を得ることができます。芝がそれほど高くも太くもない場合は、運転速度を上げても芝刈り結果に影響は出ません。
- 芝刈りの頻度を多くすることで芝生の状態を良好に保つことができます。刈り取りがより均一になり、また除草も表面により均一に分配されるようになります。芝刈り結果の質を低下させることなく高速運転スピードが選択できるため、全体としてみれば所要時間が増えるわけではありません。
- 濡れた芝は刈らないでください。柔らかい芝にタイヤが沈むため、良好な芝刈り結果が得られなくなります。
- 毎使用後、カッティングユニット下部からホースで水をかけます。カッティングユニットはサービスポジションにセットします。
- BioClip 機能を使用するときは、刈り取りインターバルが長過ぎないことが重要です。

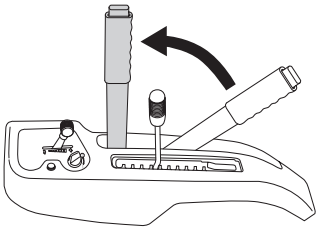
警告！10° を超える斜面で製品を使用しないでください。斜面では、上方、下方への刈り取りは可能ですが、斜面を横切る刈り取りはしないでください。急激に方向転換をしないでください。



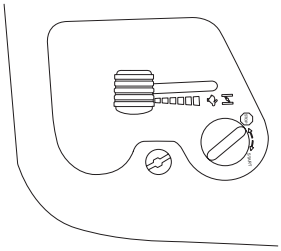
エンジンの停止

エンジンにかかる負荷が多かった場合は、停止する前に 1 分間アイドリングさせ、通常の稼働温度にすることをお勧めします。ただし、長時間アイドリング状態にしておくと、スパークプラグにすすが溜まる危険性があります。

1 レバーを後ろに引いてロック位置にし、カッティングユニットを持ち上げます。



1 スロットルを後方に引き、イグニッションキーを「STOP」位置まで回します。



2 Rider が停止しているとき、駐車ブレーキを踏み、ロックボタンを押します。

保守点検一覧

下記リストは、製品に実施する保守点検項目の一覧です。本マニュアルに記載されていない箇所については、認定修理工場にお尋ねください。

保守点検項目	毎日の始動前メンテナンス	毎年一度以上	稼働時間毎のメンテナンス			
			25	50	100	200
清掃	X					
エンジンオイルレベルを確認する	X					
エンジン冷却吸気口を点検する	X					
燃料ポンプのエアフィルターを点検する	X					
ステアリングワイヤーを点検する	X					
ブレーキを点検する	X					
バッテリーを点検する	X					
安全システムを点検する	X					
ナット類とネジ類を点検する	O					
燃料漏れとオイル漏れを点検する	O					
サイレンサー周辺を清掃する	O					
エンジンオイルを交換する [1)]			X	X		
エアフィルターのプレフィルターを交換する [2)]			X			
カッティングデッキを点検する			X			
タイヤ空気圧が 60 kPa/8.5 PSI であることを確認する			X			
ベルトアジャスターに潤滑油を塗布する [3)]			X			
各ジョイント部およびシャフト類に潤滑油を塗布する [3)]			X			
V ベルトを点検する			O			
トランスミッションのオイルレベルを点検し、必要であれば注油する	X					
駐車ブレーキを点検し、調整する				X		
スロットルワイヤーを点検し、調整する				X		
エンジン冷却フィンおよびトランスミッション冷却フィンを清掃する [2、4)]				O		
エアフィルターのプレフィルターおよびペーパーフィルターを交換する [2)]					X	
燃料フィルターを交換する					X	
スパークプラグを交換する					X	
エンジンのバルブクリアランスを点検する [4)]					O	
ギアボックス内部および油圧系統内部のオイル [4、5)] の交換が必要であるか点検する		O				O
燃料ホースを点検し、必要に応じて交換する [4)]		O				
フロントホイールとリヤホイールが同期しているか点検する		O				

[1)] 稼働 8 時間後に最初の交換を行います。重い負荷で使用した場合、または高い周囲温度で使用した場合は 25 時間毎に交換します。[2)] ホコリの多い環境で使用した場合は、これより高い頻度でフィルターの清掃および交換を行います。[3)] 連日使用する場合は、毎週 2 回潤滑油を補給します。[4)] 認定修理工場にて実施します。[5)]Rider 216 AWD についてのみ、稼働 8 時間後に最初の交換を行います。

X = 本取扱説明書に記載あり。

O = 本取扱説明書に記載なし。

警告！エンジンおよびカッティングユニットに対しては、下記の状態が確認されない限り、いかなる保守点検項目も行わないでください。

エンジンが停止している。

イグニッションキーが抜かれている。

スパークプラグからイグニッションケーブルが抜かれている。

駐車ブレーキがかかっている。

カッティングユニットが取り外されている。

清掃

使用後は、製品を直接清掃します。刈り取った芝は、乾燥してしまう前に洗い流すことをお勧めします。

油汚れは冷たい脱脂剤で取り除くことができます。脱脂剤はスプレーで薄く塗布します。

ホースを使い、常圧の水で洗い流します。

水流を電気部品またはベアリングに直接向けないでください。

エンジンや排気系統など高温の表面を水で洗わないでください。

最初に、カッティングユニットをサービスポジションにセットします。毎使用後、カッティングユニット下部からホースで水をかけます。

清掃後は、余分な水分を吹き飛ばすために、エンジンを始動し、短期間モアを動作させることを推奨します。

清掃後に、必要に応じて製品に潤滑油を塗布します。脱脂剤または水流がベアリングにかかった場合は、潤滑油を追加で塗布します。

重要！高圧洗浄機またはスチームクリーナーは使用しないでください。

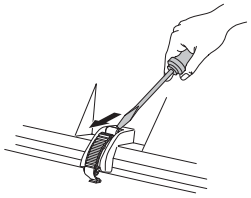
ベアリング内部または電気的接続部の内部に水分が侵入し、大変危険です。内部に腐食が発生し、製品の動作不良を引き起こすことがあります。清掃用添加剤は、一般的に障害を悪化させます。

フードの取り外し

エンジンカバー

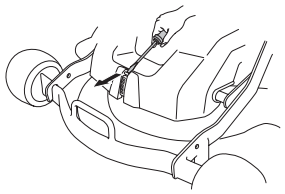
エンジンカバーを開くと、エンジンの保守点検ができます。

座席を前に倒し、座席下のスナップロックを緩めてエンジンカバーを後ろに倒します。



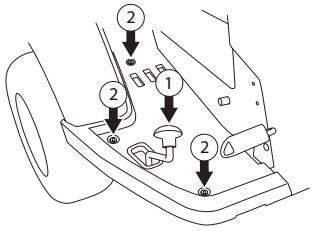
フロントカバー

フロントカバーのクリップを取り外し、フェンダーを持ち上げて取り外します。



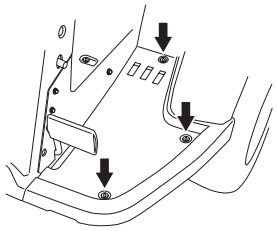
右側フェンダー

ノブ (1)、ネジ (2) を取り外し、カバーを取り外します。



左側カバー

ウィングカバーを止めているネジを取り外して、カバーを持ち上げて取り外します。

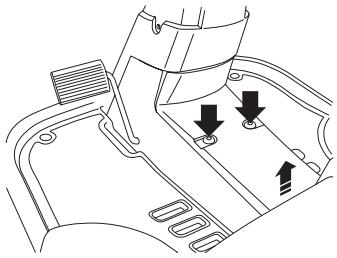


ステアリングワイヤーの点検と調整

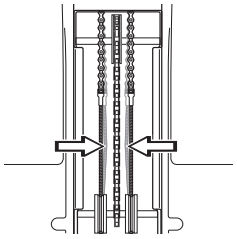
ハンドル操作はワイヤーによりコントロールされています。時間の経過によりワイヤーが緩み、ステアリング調整にずれが生じます。

ステアリングを下記のように点検し、調整します。

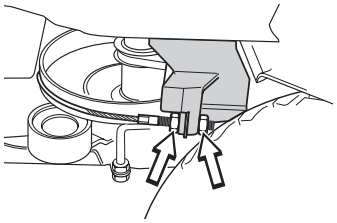
1 フレームプレートを止めているネジ (2) を取り外して、フレームプレートの後部エッジを持ち上げて取り外します。



2 ステアリングワイヤーを下図矢印方向にまとめて握り、ステアリングワイヤーのテンションを点検します。無理な力を掛けずにステアリングワイヤーを握った時に、ステアリングワイヤー同士の距離が通常時の半分に近づく程度が目安です。



3 必要に応じて、ステアリングカラーの両側にある調整ナットを締め付けてステアリングワイヤーのテンションを調整します。ステアリングワイヤーに過度なテンションを与えて張り過ぎないでください。ステアリングワイヤーはステアリングカラーの方向に引き込まれれば十分です。



H ステアリングワイヤーがねじれないようにモンキーレンチ等で、ステアリングワイヤーを挟みます。

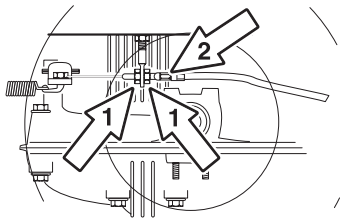
片側のテンションを変えただけで、ステアリングハンドルの中心位置が変化します。

上記手順 2 の調整が完了したら、ステアリングワイヤーのテンションを確認します。

駐車ブレーキ調整 : Rider 213 C、Rider 216

製品を、緩やかな下り斜面にクラッチを解除した状態でブレーキをかけて駐車し、ブレーキが正しく調整され、製品が動かないことを確認します。

製品が停止しないで動く場合は、下記の手順で駐車ブレーキを調整します。



1 ロックナット (1) を緩めます。

2 ケーブルの遊びがなくなるまで調整ネジ (2) を調整し、ケーブルが張った状態にします。

3 ロックナット (1) を締めます。

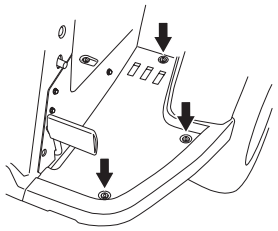
4 調整後、駐車ブレーキを再度確認します。

警告！ブレーキの調整不良は、ブレーキ性能の低下につながります。

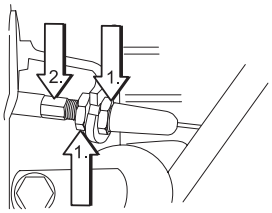
駐車ブレーキ調整 : Rider 216 AWD

製品を、斜面に前輪アクスルと後輪アクスルを解除して駐車します。駐車ブレーキをかけてロックします。製品が停止しないで動く場合は、下記の手順で駐車ブレーキを調整します。

1 左側ウィングカバーを取り外します。



1 ロックナット (1) を緩めます。



2 ケーブルの遊びがなくなるまで調整ネジ (2) を調整し、ケーブルが張った状態にします。

3 ロックナット (1) を締めます。

4 調整後、駐車ブレーキを再度確認します。

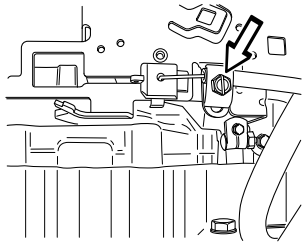
5 左側ウィングカバーを取り付けます。

警告！駐車ブレーキの調整不良は、ブレーキ性能の低下につながります。

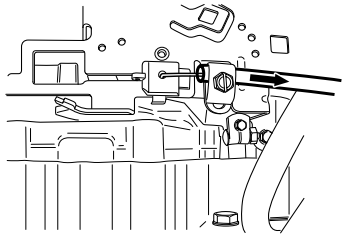
スロットルワイヤーの調整

エンジンを加速した時に操作通りに加速しない、エンジンから黒い煙が出る、エンジンが最高回転速度に上がらない等の場合には、スロットルワイヤーの調整が必要です。

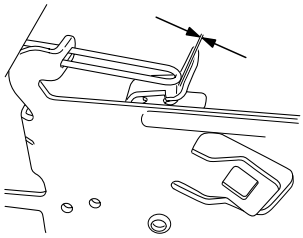
1 ワイヤーケーシングを止めている止めネジを取り外し、チョークレバーをチョーク最大にします。



2 ワイヤーケーシングを右端まで引き、止めネジを締め付けます。



3 スロットルレバーを最大スロットル位置に引き戻し、チョークが作動していないことを確認します。



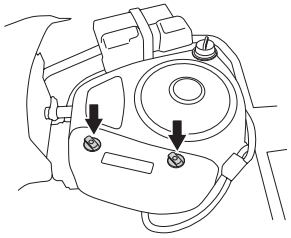
エアフィルターの交換

エンジン出力が不足しているようであったり、エンジンがスムースに回転しない場合は、エアフィルターが目詰まりしています。エアフィルターは定期的に交換するようにしてください (正しい交換時期についてはメンテナンス / 保守点検一覧を参照してください)。

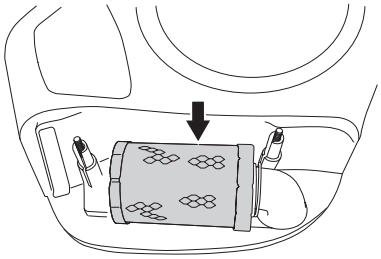
エアフィルターを以下のように交換します。

1 エンジンカバーを開きます。

2 エアフィルターカバーの取っ手を引き上げてフックを外し、エンジンの方へ回転させます。



3 ファンハウジングからエアフィルターカートリッジを持ち上げて取り外します。



重要情報

ペーパーフィルターを清掃するときに、圧縮空気を使用していでください。

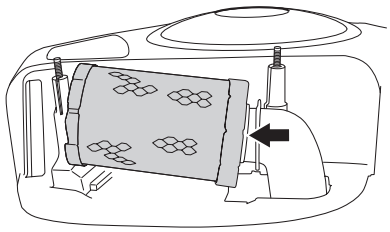
また、ペーパーフィルタに油を塗布しないでください。ペーパーフィルターは乾燥した状態のものを取り付けます。

4 フィルターカートリッジ辺りにあるフォームラバープレフィルターを取り外し、洗剤で清掃します。

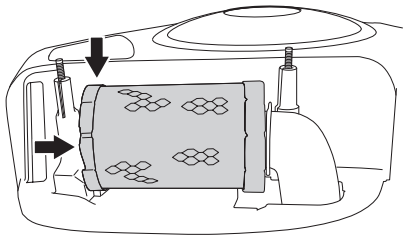
5 プレフィルターを適切に乾かします。

6 フィルターカートリッジにプレフィルターを再取り付けします。

7 エアホースの上にフィルターをスライドします。



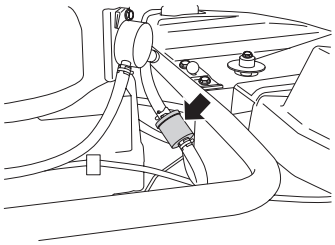
8 フィルターカートリッジを所定位置に押します。



9 エアフィルターカバーを再取り付けします。

燃料フィルターの交換

燃料フィルターを稼働 100 時間毎 (またはシーズンに一回) 交換します。目詰まりしている場合はより頻繁に交換します。



燃料フィルターを以下のように交換します。

1 エンジンカバーを開きます。

2 ホースクリップをラジオペンチを使ってフィルターから引き離します。

3 ホース先端から燃料フィルターを取り外します。

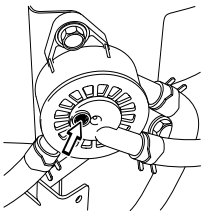
4 新しい燃料フィルターをホース先端に押し込みます。押し込みやすいように、必要に応じて燃料フィルター末端に液体洗剤を塗布します。

5 ホースクリップをフィルターに取り付け、締め付けます。

燃料ポンプエアフィルターの点検

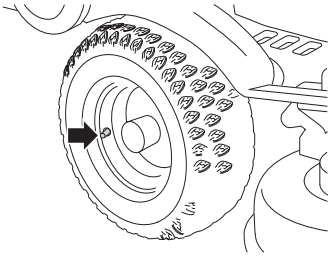
燃料ポンプエアフィルターにごみが詰まっていないか定期的に点検します。

燃料ポンプエアフィルターはブラシを使って清掃します。



タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧は、すべてのタイヤが 60 kPa / 0.6 bar / 9 PSI であるようにしてください。駆動力を向上させるために、後輪のタイヤ空気圧を 40 kPa / 0.4 bar / 6 PSI に低減させることも可能です。



重要情報 前輪の左右のタイヤで空気圧が異なる場合、ブレードの高さに差異が生じ、芝生を均一に刈ることができなくなります。最良の芝刈り結果を得るためだけでなく、製品へのダメージを避けるためにもタイヤの空気圧を均等にすることは重要です。

イグニッションシステム

本エンジンは電子イグニッションシステムを搭載しています。メンテナンスが必要なのはスパークプラグのみとなります。推奨スパークプラグについては、「テクニカルデータ」を参照してください。

重要情報

間違ったタイプのスパークプラグを取り付けると、エンジンを損傷することがあります。

スパークプラグの交換

1 イグニッションケーブルシューを取り外し、スパークプラグ周辺を清掃します。

2 5/8” (16 mm) スパークプラグソケットレンチでスパークプラグを取り外します。

3 スパークプラグを点検します。電極が焼損していたり、絶縁部にひびが入っていたり破損している場合は、スパークプラグを交換します。再使用する場合は、スパークプラグをスチールブラシで清掃します。

4 電極ギャップをすきま測定ゲージで測定します。ギャップは 0.75 mm/0.030” である必要があります。ギャップ調整が必要な場合は、側壁電極を曲げて調整します。

5 スパークプラグを、ねじ山を破損しないように手で回して取り付けます。

重要情報

スパークプラグの締め付けが不十分である場合、オーバーヒートが発生し、エンジンを破損することがあります。スパークプラグを強く締め過ぎると、シリンダーヘッドのねじ山を破損することがあります。

6 手でプラグをねじ込み、取り付け台座に当たったら、プラグレンチで以下のように締め付けます。スパークプラグが再使用の場合は、取り付け台座の位置からさらに 1/8 回転増し締めします。新品のプラグの場合は、取り付け台座の位置からさらに 1/4 回転増し締めします。

7 イグニッションケーブルシューを交換します。

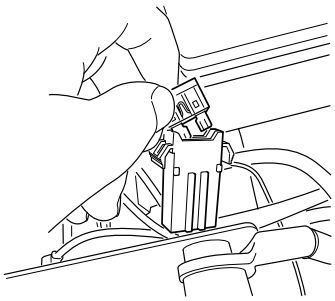
重要情報

スパークプラグまたはイグニッションケーブルを取り外した場合は、エンジンを始動しないでください。

ヒューズ

メインヒューズは、バッテリー前面、バッテリーケースカバー下の取り外し式ヒューズホルダーの中にあります。

型式 : 平型ピンヒューズ 15 A



ヒューズ交換の際は、上記以外のヒューズは使用しないでください。

ヒューズの焼損は、コネクターが焼損しているかどうかで判別できます。交換するには、ヒューズホルダーからヒューズを取り外します。

ヒューズは電気系統を保護しています。ヒューズが交換後もすぐに切れる場合は、電気系統がショートしています。製品を使用する前に電気系統を修理してください。

安全システムの点検

Rider には、下記の状態では始動または動作しないように安全システムが搭載されています。

次の状態でのみエンジンが始動できます。

- カッティングデッキが上昇位置にあり、駐車ブレーキがかかっている場合。

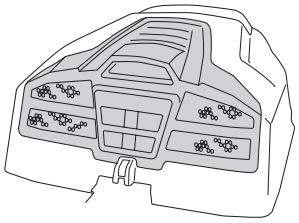
次の状態でエンジンが停止しなければなりません。

- カッティングデッキが下降位置で、作業者が運転席から離れた場合。
- カッティングデッキが上昇位置で、駐車ブレーキをかけずに作業者が運転席から離れた場合。

安全システムが作動するか、上記の状況を毎日確認してください。状況を変化させて再確認してください。

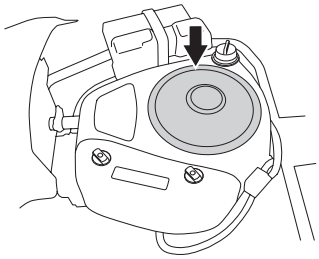
エンジン冷却吸気口の点検

運転席後部のエンジンカバー内部のエアー取込口グリルを清掃します。



エンジンカバーを開きます。

エンジン冷却吸気口が葉、草、泥などで塞がれていないことを確認します。



エンジンカバー内部の吸気ダクトを点検し、吸気ダクトが清潔で、冷却吸気口に接触していないことを確認します。

冷却吸気口が塞がれていると、エンジンの冷却が妨げられ、エンジンが損傷することがあります。

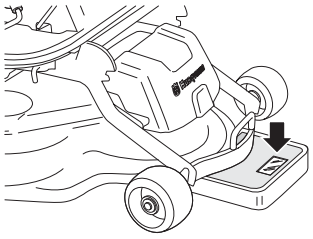
警告！冷却吸気口は、エンジン動作中は回転しています。指を切らないように注意してください。

カッティングユニット接地圧の点検と調整

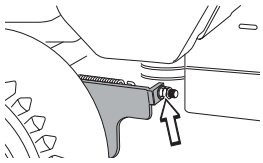
最適な芝刈り結果を得るには、地面に対してカッティングユニットを強く押し当て過ぎず、カッティングユニットが地面の表面に沿うようにします。接地圧は Rider の両側にあるネジとスプリングで調整します。

1 タイヤ空気圧が 60 kPa / 0.6 bar / 9 PSI であることを確認します。

2 体重計をカッティングユニットフレーム (前端) の下に入れ、カッティングユニットフレームが体重計の上に乗るようにしてください。必要ならばブロックをフレームと体重計の間に入れて、車輪がカッティングユニットの重みを支えないようにします。



3 両側の前輪の後ろにある調整ネジをそれぞれ締め込むか緩めるかにより、カッティングユニットの接地圧を調整します。接地圧は 12 - 15 kg になるようにします。また、両スプリングはテンションが均等にかかっているようにします。



カッティングユニット水平度の点検

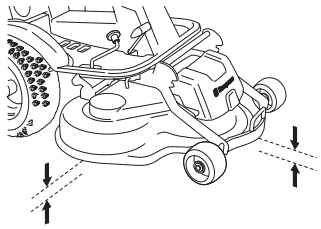
カッティングユニット水平度の点検を以下のように行います。

1 タイヤ空気圧が 60 kPa / 0.6 bar / 9 PSI であることを確認します。

2 製品を水平な場所に駐車します。

3 カッティングユニットカバーの前端と地面との距離を測定します。

カッティングユニットは後端が前端よりも約 2-4 mm (1/8”) 高い、わずかに傾斜した状態にします。

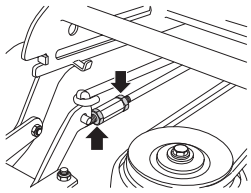


カッティングユニット水平度の調整

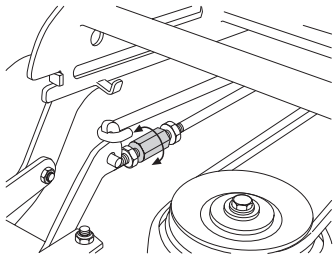
1 タイヤ空気圧が 60 kPa/0.6 kp/cm^2/8.5 PSI であることを確認します。

2 フロントカバーを取り外します。

3 水平度ステーのナットを緩めます。内側のナットは左ネジに切られているので注意してください。



4 カバーの後端を上げるには、ステーをねじ出します (伸ばす)。カバーの後端を下げるには、ステーをねじ込みます (縮める)。



5 調整後はナットを締めます。

6 カッティングユニットの水平度を調整した後、水平度を再確認します。

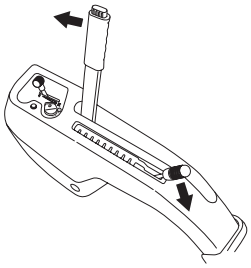
7 フロントカバーを取り付けます。

カッティングユニットのサービスポジション

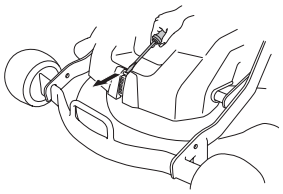
サービスポジションでは、カッティングヘッドの清掃、修理、その他のメンテナンスをすることができます。サービスポジションでは、カッティングユニットは上昇し、垂直状態でロックされます。

サービスポジションの設定

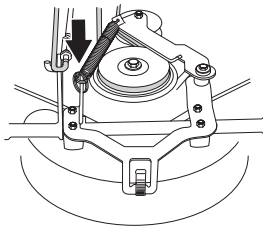
1 製品を水平な地面に駐車します。駐車ブレーキをかけてロックします。刈高コントロールを一番低い位置にセットし、カッティングユニットを上昇させます。



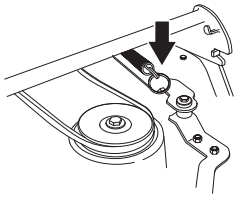
2 ピンを取り外し、フロントカバーを取り外します。



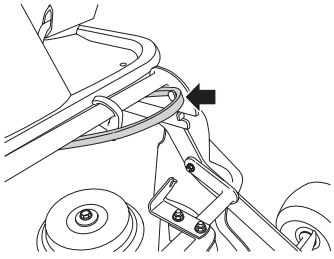
3 駆動ベルトのベルトアイドラーにかかっているスプリングを、ハンドルを緩めて緩めます。



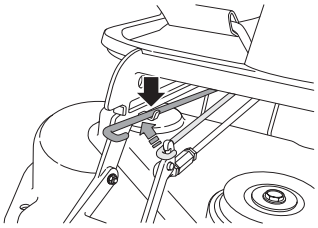
4 ハンドルをフレームアーチに取り付けます。



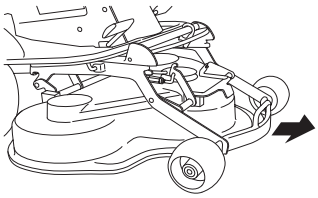
5 駆動ベルトを取り外し荷重軽減フックに取り付けます。



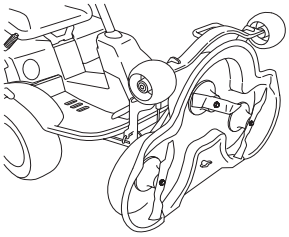
6 刈高ステーを緩めて、ホルダーに取り付けます。



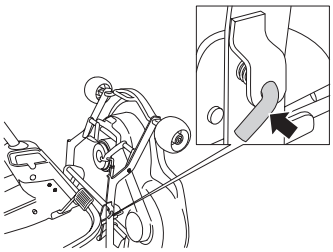
7 カッティングユニットの前端をつかみ、止まるまで前方に引きます。



8 カチッと音がして止まるまで持ち上げます。

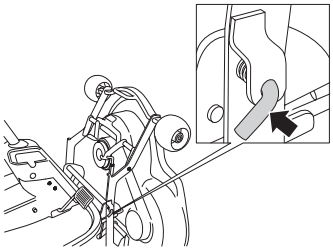


9 カッティングユニットは自動的に垂直位置にロックします。

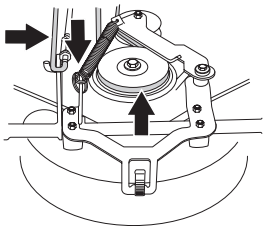


サービスポジションからの復帰

1 カッティングユニットの前端をつかみ、ロックを緩めます。水平に戻し、中に押し込みます。

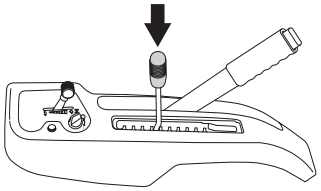


2 刈高ステートベルトを交換します。ベルトアジャスターでベルトテンションを調整します。



3 フロントカバーを取り付けます。

4 刈高コントロールを 1 から 10 までのいずれかの位置にセットします。



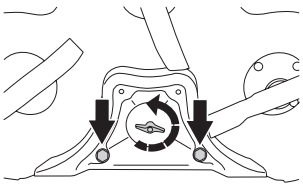
BioClip プラグの取り外し

Combi ユニットを BioClip 機能から後方排出のカッティングユニットにするには、カッティングユニット下部にある BioClip プラグのネジ 3 本を取り外してプラグを取り外します。

- カッティングユニットを、「カッティングユニットのサービスポジション」を参照して、サービスポジションにセットします。

Combi 94

- BioClip プラグを取り付けているノブを緩めてプラグを取り外します。

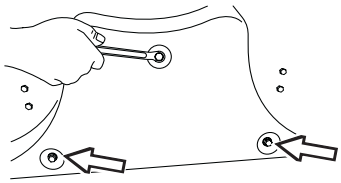


- カッティングユニットを通常位置に戻します。

逆の手順で BioClip プラグを取り付けます。

Combi 103

- BioClip プラグを保持している 3 本のネジを取り外し、プラグを取り外します。



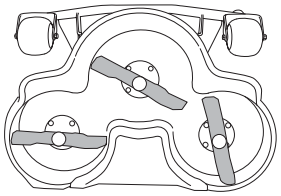
- ヒント : ネジ穴保護のため、3 本の M8x15 mm 全ネジのスクリューを装着しておきます。
- ユニットを通常位置にします。

BioClip プラグ装着は逆順となります。

ブレードの点検

最高の芝刈り結果を得るには、ブレードは損傷がなく、よく研磨されていることが重要です。

ブレード取り付けネジに緩みがなく、かたく締まっていることを確認します。



重要情報 ブレードの交換または研磨は、認定修理工場にて実施してください。

ブレードの研磨後は、ブレードバランス調整を実施してください。

障害物にブレードをぶつけてブレードを破損した場合は、ブレードを交換します。ブレードが修理もしくは研磨可能か、または交換が必要かの判断は正規販売代理店に依頼してください。

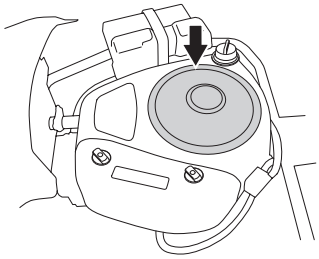
注油

エンジンオイルレベルの確認

Rider を水平な場所に駐車し、エンジンを止めて、エンジン内のオイルレベルを確認します。

エンジンカバーを開きます。

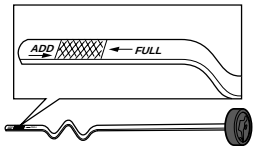
ディップスティックを緩め、引き上げてオイルを拭き取ります。



ディップスティックを**完全にねじ込みます**。

ディップスティックを再度引き上げて、オイルレベルを読みます。

オイルレベルは、ディップスティックの 2 つのレベルマークの中間にあるようにします。オイルレベルが、ADD マークの近くである場合は、ディップスティックの FULL マークまでオイルを補給します。



オイルは、ディップスティックの入っていた穴から補給します。

オイルはゆっくりと補給します。オイル補給後は、ディップスティックをねじ込んでからエンジンを始動します。エンジンを始動した後、30 秒程度アイドリング速度で運転し、エンジンを停止します。さらに 30 秒経過後、オイルレベルを確認します。必要に応じて、ディップスティックの FULL マークまでオイルを補給します。

必ず、化学合成エンジンオイル SJ-CF 5W/30 または SJ-CF 10W/30 クラスで全温度範囲タイプを使用してください。温度範囲 > +5 °C (40 °F) では、鉱油 SAE30 で SF–CC クラスも使用することができます。

種類の異なるエンジンオイルを混合しないようにしてください。

エンジンオイルの交換

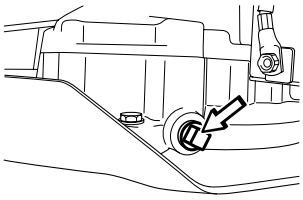
エンジンオイルは、使用開始から 5 時間後に最初の交換を行います。稼働 50 時間毎にオイルを交換します。

高い負荷で使用した場合、または高い周囲温度で使用した場合は 25 時間毎に交換します。

警告！エンジン停止直後は、エンジンオイルは非常に高温となります。エンジンオイルが冷却するまで排液を待つようにします。

1 エンジン左側のオイルドレーンプラグの下に排液容器を置きます。

2 ディップスティックを抜きます。エンジン左側からドレーンプラグを取り外します。



3 オイルを排液容器に排出します。

4 排液後、ドレーンプラグを取り付け、締め付けます。

5 新しいオイルをディップスティックの ”FULL” マークまで補給します。オイルは、ディップスティックの入っていた穴から補給します。オイルの補給には、「エンジンオイルレベルの確認」を参照してください。

6 エンジンを始動して暖機運転し、オイルプラグからオイル漏れのないことを確認します。

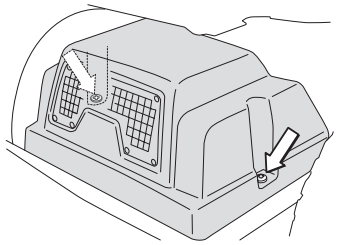
重要情報

使用済みエンジンオイルは健康に有害です。地面や自然環境の中に廃棄しないでください。使用済みのエンジンオイルは工場内で処理するかまたは適切な処理施設で処理してください。

使用済みのエンジンオイルが皮膚に触れてないようにしてください。飛び散った場合は、石鹸か水で洗い落としてください。

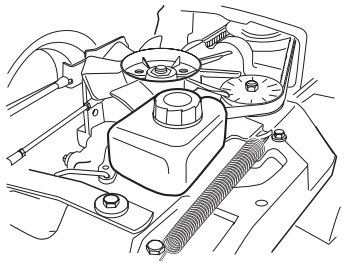
トランスミッションのオイルレベル点検

1 トランスミッションカバーを取り外します。2 本のネジ (両側に 1 本ずつ) を取り外し、トランスミッションカバーを持ち上げて取り外します。



2 **Rider 213 C、Rider 216** トランスミッションのオイルタンクにオイルがあることを確認します。必要に応じて、エンジンオイル SAE 10W/40 (SF–CC クラス) を補給します。

Rider 216 AWD トランスミッションのオイルタンクにオイルがあることを確認します。必要に応じて化学合成オイル 10W/50 を補給します。



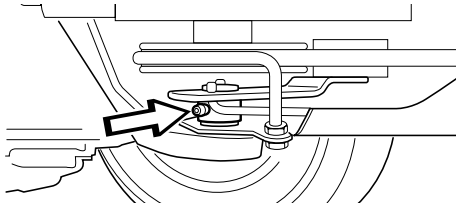
オイルとフィルターは、サービスマニュアル記載の認定修理工場にて交換してください。

この作業には、特別な清潔さが要求され、また製品が使用される前にエア抜きができる施設が要求されます。

ベルトアジャスターへの注油

ベルトアジャスターには、良質な二硫化モリブデングリス * を定期的に注油します。

グリスガンを使って、エンジンの下側ベルトプーリーの下にある右から 1 つ目のニップルから、グリスが溢れるまで注油します。



製品を毎日使用している場合は、毎週 2 回注油します。

一般的な注油

すべてのジョイント部およびベアリングは、製造時に二硫化モリブデングリスで注油されています。これと同じタイプのグリス * を継続的に注油してください。ステアリング系統とコントロールワイヤー類はエンジンオイルを注油してください。

注油は定期的に行ってください。製品を毎日使用している場合は、毎週 2 回注油します。

* 通常、知名度の高いメーカー (石油化学会社など) のグリスであれば品質に問題はありません。腐食に対して十分な保護特性のあるグリスを使用してください。

トラブルシューティング

症状	原因
エンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料がない。 スパークプラグの不良。 スパークプラグの接続、または交換したケーブルの不良。 キャブレター内部または燃料系統にごみがある。 エンジンがスターターモーターを回しても始動しない。
スターターモーターを回してもエンジンが始動しない。	バッテリーが放電して切れている。 バッテリーとケーブルの接続不良。 カッティングユニットの昇降レバーが誤った位置に入っている。 メインヒューズが切れている。 イグニッションロックの不良。 駐車ブレーキが踏み込まれていない。 スターターモーターの不良。
エンジンがスムースに回らない。	スパークプラグの不良。 キャブレターのセッティング不良。 エアフィルターの目詰まり。 燃料タンク通気の目詰まり。 イグニッションキーの不良。 キャブレター内部または燃料系統にごみがある。 チョークされている、またはスロットルケーブル調整の不良。
エンジン出力が不足している。	エアフィルターの目詰まり。 スパークプラグの不良。 キャブレター内部または燃料系統にごみがある。 キャブレターのセッティング不良。 チョークされている、またはスロットルケーブル調整の不良。
エンジンがオーバーヒートする。	エンジンに過負荷がかかっている。 スパークプラグの不良。 吸気フランジまたは冷却フランジの目詰まり。 ファンの破損。 エンジン内にオイルが少ない、または入っていない。 イグニッションの不良。
バッテリーが充電できない。	1 つまたは複数のバッテリーセルの不良。 バッテリー端子ケーブルの接続不良。
製品が振動する。	ブレードの取り付けが緩い。 エンジンの取り付けが緩い。 1 つまたは複数のブレードが、研磨後の破損またはバランス調整不良によりバランス不良になっている。
芝刈りにむらがある。	ブレード刃先が鈍い。 芝が長い、または濡れている。 カッティングユニットが斜めになっている。 フードの下に芝が詰まっている。 右側と左側で接地圧が異なる。 オーバースピード。 エンジン回転数が低過ぎる。 駆動ベルトがスリップしている。

保管

冬季の保管

シーズンが終わったら、または製品を 30 日以上使用しない場合は、製品の保管準備をします。燃料を長期間 (30 日以上) 放置すると、粘着性の沈降物が発生してキャブレターに詰まり、エンジンの障害となります。

燃料安定剤を燃料の代わりに入れると、長期の保管中に粘着性沈降物が発生するのを防ぐことができます。アルキレートガソリン (Aspen) は安定したガソリンであるため、これを使用した場合には燃料安定剤は不要となります。しかし、ゴム製の部品がアルキレートガソリンに反応して硬化するため、通常のガソリンをアルキレートガソリンには変更しないでください。燃料タンクまたはガソリン貯蔵容器のガソリンに安定剤を添加するようにしてください。安定剤の添加量は、メーカー指示の混合比になるようにします。安定剤を添加した後は、安定剤がキャブレターに到達する用に 10 分以上エンジンを運転します。安定剤を添加したら、燃料タンクおよびキャブレターを空にしないでください。

警告 ! 燃料タンクにガソリンが入ったままのエンジンを室内に保管しないでください。また、換気が不十分で、気体となったガソリンが裸火、火花、ボイラーの口火、温水ヒーター、乾燥キャビネットに接触するような場所にガソリンが入ったままのエンジンを保管しないでください。気体となったガソリンは非常に可燃性が高く、不注意に保管すると大怪我や損害の原因となります。ガソリンは屋外の、裸火に触れない場所で、正規のガソリン容器に抜き取ります。決してガソリンを洗浄用途に使用しないでください。洗浄用途には、脱脂剤と温水を使用します。

製品を保管するには、下記の指示を守ってください。

1 製品を十分に清掃します。特にカッティングユニットの下を十分に清掃します。腐食を防ぐために塗装が剥離している箇所をタッチアップペイントで補修します。

2 製品に摩耗したり破損したりした部品がないか点検します。緩んだネジとナットを締めます。

3 エンジンオイルを交換し、排オイルを処理します。

4 燃料タンクを空にします。エンジンを始動して、キャブレター内のガソリンが空になるまで運転します。

5 プラグを取り外し、スプーン一杯程度のエンジンオイルをそれぞれのシリンダーに入れます。エンジンの向きを変えてオイルを行き渡らせます。プラグを取り付けます。

6 すべてのグリスニップル、ジョイント部および車軸にグリスを注油します。

7 バッテリーを取り外します。バッテリーを清掃し、冷所に保管します。

8 製品を清潔で乾燥した場所に保管し、十分に保護するようにカバーをかけます。

保護

保管中または輸送中に、製品を保護するためのカバーが用意されています。お近くの販売店にお問い合わせください。

サービス

シーズン中に製品の性能を発揮し、かつ安全にお使い頂くために、オフシーズンは十分な手入れやオーバーホールに最適な時期です。

補修部品を発注するときは、製品を購入した時期、型式、製造番号をご連絡ください。

常に、純正部品を使用してください。

毎年の点検または正規販売店にてオーバーホールを行うことで、次のシーズンに最高の性能を発揮することができます。

テクニカルデータ

	Rider 213 C	Rider 216	Rider 216 AWD
外形寸法			
全長 (カッティングユニットあり) mm/ft	2230 / 7.32	2230 / 7.32	2230 / 7.32
全長 (カッティングユニットなし) mm/ft		1900 / 6.23	1900 / 6.23
全幅 (カッティングユニットあり) mm/ft	1000 / 3.29	1000-1080 / 32.8-35.4	1000-1080 / 32.8-35.4
全幅 (カッティングユニットなし) mm/ft		890 / 2.92	890 / 2.92
高さ mm/ft	1070/3.52	1070/3.52	1070/3.52
質量 (カッティングユニットあり) kg/lb	229/505	233-241	252-260
ホイールベース mm/ft	887/2.9	887/2.9	887/2.9
トラック幅フロント mm/ft	712/2.34	712/2.34	712/2.34
トラック幅リヤ mm/ft	627/2.06	627/2.06	627/2.06
タイヤ寸法	165/60-8	165/60-8	165/60-8
空気圧 後輪 - 前輪 kPa / bar / PSI	60 (0.6/8.5)	60 (0.6/8.5)	60 (0.6/8.5)
エンジン			
ブランド / モデル	Briggs & Stratton/2198	Briggs & Stratton/31A6	Briggs & Stratton/31A6
公称エンジン出力 kW (注 1 参照)	6.7	9.6	9.6
排気量 cm^3/cu.in	344	500	500
最大エンジン回転数 r/min	3000 ± 100	2900 ± 100	2900 ± 100
燃料、最低オクタン価 (無鉛)	85	85	85
燃料タンク容量 L	12	12	12
エンジンオイル規格 SJ-CF	SAE 5W/30 または SAE 10W/30	SAE 5W/30 または SAE 10W/30	SAE 5W/30 または SAE 10W/30
エンジンオイル容量 L / USqt	1.4/1.5	1.4/1.5	1.4/1.5
始動	電動スターター	電動スターター	電動スターター
電気システム			
型式	12 V、マイナスアース	12 V、マイナスアース	12 V、マイナスアース
バッテリー	12 V、24 Ah	12 V、24 Ah	12 V、24 Ah
スパークプラグ	Champion QC12YC	Champion QC12YC	Champion QC12YC
電極ギャップ mm/inch	0.75/0.030	0.75/0.030	0.75/0.030
メインヒューズ	平型ピン 15 A	平型ピン 15 A	平型ピン 15 A
騒音排出および刈幅			
(注 2 参照)			
実測音響レベル dB(A)	98	99	99
保証音響レベル dB(A)	100	100	100
刈幅 mm/inch	940 / 37	940-1030 / 37-41	940-1030 / 37-41
音響レベル			
(注 3 参照)			
使用者耳元の音圧レベル dB(A)	84	84	84
振動レベル			
(注 4 参照)			
ステアリングハンドルの振動レベル m/s^2	2.5	2.5	2.5
座席の振動レベル m/s^2	0.7	0.7	0.7
トランスミッション			
ブランド	Tuff Torq	Tuff Torq	K 574 KTM 10L
オイル	SAE 10W/40	SAE 10W/40	SAE 10W/50 Synthetic
前進スピード km/h	0-9	0-9	0-9
後進スピード km/h	0-6	0-6	0-6
カッティングユニット			
型式	Combi 94	Combi 94	Combi 94
		Combi 103	Combi 103

注 1: 表示されているエンジンの定格出力は SAE 規格 J1349/ISO1585 に従って計測されたエンジンモデルの典型製造エンジン平均ネット出力 (指定回転にて) です。量産エンジンはこの値と異なる場合があります。最終製品に搭載されたエンジンの実際の出力は、使用スピード、環境条件、およびその他の値によって異なります。

注 2: 環境内騒音排出は EC 指令 2000/14/EC に準拠し、音響 (L_{WA}) として計測。

注 3: EN 836 による音圧レベルです。音圧レベルの報告データには、典型的に 1.2 dB(A) の統計的分散 (標準偏差) が見られます。

注 4: EN 836 による振動レベルです。振動レベルの報告データには、典型的に 0.2 m/s^2 (ステアリングハンドル) および 0.8 m/s^2 (座席) の統計的分散 (標準偏差) が見られます。

テクニカルデータ

カッティングユニット	**Combi 94**	**Combi 94**	**Combi 103**
刈幅 mm/inch	940/37	940/37	1030/41
刈高 10 段階 mm/inch	25-75/0.98-2.95	25-75/0.98-2.95	25-75/0.98-2.95
ブレード長 mm/inch	358/14.09	358/14.09	388/15.28

重要情報 本製品のサービス寿命が終了し、使用しなくなった場合は、リサイクルのため販売店または該当する場所へ返却してください。

重要情報 ハスクバーナ AB 社は製品の品質向上のため、予告なしに製品の設計や外観の変更を行うことがあります。ご了承ください。本マニュアルの情報に関する法的要求は一切無効です。修理の際は、純正部品のみお使いください。純正部品以外の部品が使用されている場合、本保証は無効となります。

テクニカルデータ

EC 適合宣言 (ヨーロッパのみに適用)

ハスクバーナ AB 社、SE-561 82 Huskvarna、スウェーデン、電話 : +46-36-146500 は、2011 年の製造番号以降 (製造年は製造番号と共に銘板に明記) の Husqvarna Rider 213 C、Rider 216、Rider 216 AWD が、評議会指令の規定に従うことをここに宣言します。

2006 年 5 月 17 日付け 「機械類に関する」**2006/42/EC**

2004 年 12 月 15 日付け 「電磁波適合性に関する」**2004/108/EC**

2000 年 5 月 8 日付け「環境への騒音排出に関する」**2000/14/EC**

以下の関連規格も適用されています。**EN ISO 12100-2、EN-836**

0404、SMP Svensk Maskinprovning AB、Fyrisborgsgatan 3、SE-754 50 Uppsala は、2000 年 5 月 8 日付け「環境への騒音排出に関する」2000/14/EC、付録 VI の評議会指令の規定に従った評価に関する報告を発行しました。

本証明書の番号 : **01/901/143、01/901/144**

Huskvarna 2011 年 10 月 31 日

Claes Losdahl、開発マネジャー / ガーデンプロダクツ (Husqvarna AB 社の認定代理人、技術文書責任者)

取扱説明書原本の翻訳

115 45 47-79

2012-05-07